

土づくりと充実した苗づくりで、気候変動に負けない米づくりをスタート！浸種開始時の水温には要注意！

去年は夏季の高温の影響で米の品質に大きな影響が出ました。気候変動に負けない米づくりには、土づくりと初期生育確保が重要です。そのための第一歩として、イネが健全に生育できる土づくりと充実した苗づくりに取り組みましょう！

春作業の重点事項、改めて確認してみましょう！

〈土壌環境づくり〉

□1. 有機物やケイ酸等土づくり資材を投入しましょう！

異常気象対策に有効な「ケイ酸」資材は、長期的に投入することで効果が出ます！

□2. 品種、地力に応じた施肥設計を行いましょう！

過剰施肥厳禁！昨年タンパクが高めだった場合は施肥量の見直しを！

一発基肥肥料は「基肥」+「追肥」の合計量を上限に！

つや姫、雪若丸はマニュアルに基づく施肥を行いましょう



□3. 耕起前に排水対策を行い、田面の乾燥を図りましょう！

乾土効果を高めてスタートダッシュ！早めの耕起で稲わらの分解促進！

□4. 耕深を確保し、健全な根の生育環境づくりを行いましょう！

耕起深が浅いとイネが根を張れない！耕深は15cm以上を確保！



〈充実した苗づくり・適期移植〉

□5. 充実した苗づくりを行いましょう！播種作業は田植え日に合わせ計画的に！

田植え日から逆算し、計画的に播種。充実した苗に仕上げる！伸びすぎ、老化苗は×

□6. 適期移植を行いましょう！

移植適期は5月15日～20日。遅くとも5月25日には終わる計画を！

移植適期内に田植えを行うことで、生育量を確保しやすくなります！

□7. 適正栽植密度、適正植え付け深で田植えを行いましょう！

安定的な有効茎確保のため、㎡あたり100本以上の植込み本数にしましょう

1株当たりの植込み本数【70株/坪：4～5本】を揃え、茎数のバラつきをなくしましょう

植え付け深は概ね3cm！活着後は浅水管理で地水温を確保し、分げつ促進！

STOP！農作業事故！&農薬はラベル通りに使用しましょう！

1. 春作業に備えて

○積雪は例年より少ないため、ほとんどの田んぼが融雪状態となっています。積極的な排水に努め、春作業の機械効率を上げるとともに、乾土効果を高めましょう

2. 種子の予措 ～充実した苗づくりからスタート!～

(1) 塩水選 (行う場合、水温 10℃以上を確保)

○塩水を作る際の比重は、うるち 1.13、もち 1.08

※塩水選後は、きれいな水でよく洗う

	比重	水 10ℓ当り 食塩の量(目安)
うるち	1.13	2.1kg
もち	1.08	1.3kg

◎作業の前に比重計や卵などで確認を!

(2) 種子消毒 (必ず実施を)

○薬剤処理の場合は、必ず使用方法(希釈倍数、使用時期、使用方法)を確認する

※薬液の温度が低いと効果が劣る場合があるため、必ず 10℃以上の水温を確保する

○温湯浸法の場合は、58℃20 分間又は 60℃15 分間で行います

温湯処理が終わったら、すぐに冷水で冷やした後、浸種(水漬け)に移ります

発芽率の低下をまねくため、もち品種は温湯浸法を避けます

※温湯浸漬処理後直ちに浸種しない場合は、再感染抑制のため脱水後通風乾燥し、籾水分を 15%まで低下させる

(3) 浸種 (水漬け) ～温度計で随時水温確認を!!～

○水温は 10～15℃とし、10～12 日程度行い、積算水温で 120℃を確保します。播種の予定日から逆算し、種子消毒と浸種を始めます。必ず温度計を設置し、水温を随時確認しましょう!

○2～3 日毎に水交換を行い、袋の位置(特に上下)を入れ替えて吸水ムラを防止しましょう

○浸種開始時の水温が低すぎると、発芽率が低下する場合があります。最初の水温は 10℃以上(ただし 15℃未満)になるよう調節します。特に昨年的高温の影響で「種子の休眠が深い」可能性があります。種子消毒や最初の浸種温度を「必ず 10℃以上」で実施することと、浸種の積算温度 120℃を必ず確保した上で、催芽作業に移りましょう

(4) 催芽

○催芽は 30～32℃で 20 時間が目安。ハト胸状態を確認して終了し、脱水・陰干しを

3. 播種と作業計画 ～良い苗を適期に植えられるよう計画的に～

○育苗期間が長すぎると苗が老化し、活着不良や初期生育が遅れる要因に!

田植えの計画に合わせて播種日を決めましょう

○10a 当たりに必要な苗箱数は、稚苗で 25 箱、中苗で 30 箱が目安

○作業日程の目安【5月20日田植えの場合】

田植日から逆算し、
計画的に!

苗の種類	乾籾重 (g/箱)	浸種開始	催芽	播種日	育苗期間	田植日
稚苗	150～180g	4月12日	4月24日	4月25日	20～25日	5月20日
中苗	80～120g	4月2日	4月14日	4月15日	30～35日	

4. ばか苗病対策 ～育苗床の周りに稲ワラやモミ殻などありませんか～

○ばか苗病を保菌している稲ワラやモミ殻、施設や機材に付着した菌などが感染の原因となる場合もあるため、育苗ハウス内や資材をきれいにし、種子や苗を置く周辺の稲ワラやモミ殻は必ず撤去! 前年ばか苗病が多発した場合は、特に念入りに確認を!

○浸種の水温が 15℃を超えるとばか苗病の発生を助長する場合があるため、水温に気を付ける